

本事例の基礎データ

カテゴリ	ICT及び先端技術を活用した指導方法		
学校種	小学校	事例提供者	町田市立町田第五小学校
学年	1学年	教科等	国語科・生活科
単元名	きせつと なかよし -あき-		
主な ICT 機器	<ul style="list-style-type: none"> ・LTE タブレット PC (キーボード付き ChromeOS 機/一人1台) ・iPad mini (1班1台) 		
ワンポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad mini を使用し秋を撮影する。 ・Jamboard に絵を貼り付けたり付箋に手書き入力したりする。 ・描いた絵を共有ドライブのフォルダに保存する。 ・スプレッドシートのプルダウン機能や手書き入力で振り返りをする。 		
「情報活用能力 #東京モデル」 の位置付け	基本的操作	STEP 1	<ul style="list-style-type: none"> ・クリック、ダブルクリック、ドラッグ、ドロップ、タップ、スワイプ、ピンチイン・アウト、動画閲覧ソフト、簡易ペイントソフト、学習支援ソフト

本事例における教育の情報化について

【ポイント1】	<ul style="list-style-type: none"> ● 1人1台のLTEタブレットPC、iPad miniの活用 ・Googleの検索機能を使って調べ学習をする。 ・「スプレッドシート」を使って振り返りをする。 ・iPad mini を使用し秋を撮影する。
【ポイント2】	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現ツールの活用 ・Canvas や Jamboard アプリを用いて、作成したものを友達に説明する。 ・Jamboard の付箋機能を使って「よかったポイント」「よくなるポイント」を伝えることで、次に活かせる改善点を見つけることができる。
【ポイント3】	<ul style="list-style-type: none"> ● 他教科でも手書き入力・ひらがな変換の活用 ・国語や道徳でも、積極的に文字入力を行わせる。その際、児童同士の教え合いを大いに認める。

本単元（題材）における指導の流れ

時間	●主な学習活動 ・ 児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
1 ～ 3	<p>●秋の公園で見つけた秋の撮影をする。 （iPad mini）【ポイント1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ iPad mini の使い方について再度確認する。 ・ 公園に行き、秋探しをする。 ・ 秋の草花や樹木などを観察し、季節の変化に気付く。 	<p>○安全な持ち運び、起動について定着しているか。十分でない児童には個別に指導する。</p> <p>☆安全な持ち運び、起動が自分でできる。</p> <p>☆iPad mini を使って写真撮影をすることができる。</p>
4 ～ 7	<p>●Canvas アプリを用いて、作成したものを友達に説明する。【ポイント2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動したことの楽しさや、見つけた秋のことなどを Canvas アプリに絵や文で表現する。 ・ 共有フォルダに保存する。 ・ 共有フォルダを見ながら友達に紹介したり伝え合ったりする。 	<p>○掲示物を作成し、視覚的に理解できるようにする。</p> <p>☆ファイルを作成・名前変更をすることができる。</p> <p>☆画面タッチを使って、手書きで文字や絵、図を描くことができる。</p>
8 ～ 9	<p>●作りたいおもちゃの計画書を Canvas アプリに書き、Jamboard アプリに貼り付ける。【ポイント1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達に設計図のよかったポイントを Jamboard 上の付箋機能を使って伝えてもらう。 <p>●作り方で困ったことがあったら、Google の検索機能を使って調べる。【ポイント1】</p>	<p>○検索方法（キーワード等）を考えられるように、1つのテーマを与え全体で考えられるようにする。</p> <p>☆画像に文字、線、図形などを書き加えて、自分の考えを相手に伝えることができる。</p> <p>☆目的に応じて、Web 検索、図書などから適した方法を選択し、情報を収集することができる。</p> <p>☆ドライブから写真を選択し、表現ツールに取り込むことができる。</p>

<p style="text-align: center;">1 0 5 1 3</p>	<p>◎おもちゃを作ろうパート1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が作りたいおもちゃを工夫して作る。 ・自身で遊んだり、同じおもちゃを作った友達同士で遊んだりする中で、どんどん改良していく。 <p>●Jamboard アプリの付箋機能を使って「よかったポイント」「よくなるポイント」を伝えることで、次に活かせる改善点を見つける。</p> <p>【ポイント1】</p> <p>◎おもちゃを作ろうパート2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回友達に教えてもらった「よかったポイント・よくなるポイント」をJamboard アプリで振り返り、自分のおもちゃを改良する。 	<p>○プレゼンテーションを共有フォルダに入れることで、その場ですぐに進捗状況を確認し、状況に応じて個別指導する。</p> <p>☆ひらがなやカタカナを、手書き入力機能を使って入力することができる。</p> <p>☆作成したスライドを友達にプレゼンテーションすることができる。</p>
<p style="text-align: center;">1 4 5 1 6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちごランド」の計画を立てる。 ・コーナーやルールなどについて説明をする。「まちごランド」を楽しむ。 <p>●活動を振り返り、楽しかったことや嬉しかったことを絵や文で表現する。</p> <p>【ポイント2】</p> <p>●活動について感じたことや考えたことを友達と「スプレッドシート」で伝え合う。【ポイント1】</p>	<p>○掲示物を作成し、視覚的に理解できるようにする。</p> <p>☆画面タッチを使って、手書きで文字や絵、図を描くことができる。</p>

本時の流れ

段階	●主な学習活動 ・ 児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●発表する人は、自分の Jamboard アプリを開き、設計図・工夫ポイント・遊び方の説明をする。【ポイント1】 ●聞く人は、自席で発表する人の Jamboard アプリを開き、説明を聞く。【ポイント1】 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人1台使用することで、発表の内容を伝わりやすくする。 ○友達の Jamboard を勝手に削除・変更をしないよう、伝える。 ☆作成したスライドを友達にプレゼンテーションすることができる。【発言・Jamboard アプリの付箋（自身の色）の内容】
<p>作ったおもちゃを友達に説明し、友達の考えたおもちゃの「よかったポイント・よくなるポイント」を伝えよう。</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに、発表した人のおもちゃで遊ぶ。 ・遊び方を工夫して楽しむ。 ●友達のおもちゃの「よかったポイント・よくなるポイント」を Jamboard アプリの付箋機能を使って、入力する。【ポイント2】 ※各自、自分の色の付箋で入力。 ・友達の書いてくれた「よかったポイント・よくなるポイント」を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○Jamboard アプリの付箋を使って「よかったポイント・よくなるポイント」を付箋に書き込むことで活発な対話を促す。【知識・技能】 ☆みんなで楽しく遊ぶために、遊びの工夫を伝え合っている。【発言・Jamboard アプリの付箋（自身の色）の内容】【知識・技能】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●活動を思い出し、楽しかったことや気付いたこと、次回改善したいことを発表する。【ポイント1】 ※自身のスライドを確認することで振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りの設定 自分の言葉で、楽しかったことや気付いたこと、次回改善したいことを伝える。 ☆自分が作ったおもちゃの改善点を見つけることができる。【発言】

授業の実際

【ポイント1】 ● 1人1台のLTEタブレットPC、iPad miniの活用



- ・ 9月からLTEタブレットPCには親しんでおり、ログインやログアウト等の基本的な作業で滞ることはほとんどない。
- ・ 目的に応じて、Web検索、図書などから適した方法を選択し、情報を収集することができた。
- ・ ドライブから写真を選択し、表現ツールに取り込むことができた。

【ポイント2】 ● 表現ツールの活用



- ・ クラスルームからCanvasやJamboardアプリをスムーズに起動し、活用することができた。
- ・ Jamboardの付箋機能を使って共有することができた。
- ・ 画像に文字、線、図形などを書き加えて、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができた。

【ポイント3】 ● 他教科でも手書き入力・ひらがな変換の活用



- ・ 国語科や道徳科において、手書き入力・ひらがな変換を活用し、感想や自分の考えを伝え合うことができた。

今後に向けて

- 速度の差はあるが、手書き入力・ひらがな変換ができない児童は見受けられない。「1年生にICT機器の操作は難しい。」と考えられがちだが、手書き入力・ひらがな変換で可能性が大きく広がることが分かった。
- 1年生の意見交換（付箋機能を使ったやりとり）は、直感的であり友達への思いやりが感じられるあたたかいものである。1年生からICT機器に親しむことで情報モラルが自然と育成されることが期待される。